

醫國案啓蒙

✕  
i 2

Kitasato Memorial Medical Library

F  
1-2

冊一 醫國案啓

490.4  
Ia

No. 1980  
12 i 2.



富士川文庫

612



醫案啓蒙

医按ト治驗ト少シ異ナリマツ医按ハ一病人アル  
 トキニ衆医集リテ面々ノ料簡ヲカヒツケテ此  
 病人ハカヤウノ病ナレハコレノ藥ヲ用テ宜  
 カラント書テ出スヲ医按凡脈案凡云ナリ又治  
 驗ト云ハ一病人アツテ医者カ療治シテ愈タル後ニ  
 其病人ノ段々ヲ述テカヤウノ藥ヲ用テ愈タリ  
 ト書ヲ治驗ト云シカレ凡治驗ノ一ヲ通シテ医按  
 トモ云ナリ古人ノ医按ハ多クハ治驗ナリ医按ノ  
 書法吳昆カ名醫方考ノ脉語ノ後ニ出タリコニ



記ス

脈按格式

脈按者比公案之義公案ハメヤスナリメヤスヲアケテ人ノ罪ヲ訴ルニ  
 比スル比スル 医者察得病情病ニイヤト立定方法法ヲ用ユル使  
 病邪不能逃吾之方論云セヌナリ藥至而邪伏ソノ藥ヲノメハ邪氣カヲ  
ソレカ、ンテイユルナリ 譬之老吏聽訟老々  
行ノ公事ヲ 援律定刑律ハ罪科ノ法式ヲ書シ  
キクナリ 使奸人無所逃也科人ニイ  
又ナ 輕重ヲ定ルナリ  
 一書某月某地某人某ハソニシヤウソレト云ナリ

二書某人之年之高下

此間ニ形之ト云ニ字

肥瘦

長短色之黑白枯潤聲之清濁長短

三書某人苦樂病由始於何日

四書初時病證服某藥次服某藥再服某藥某藥少

效某藥不效

五書時下

十二時ノ

晝夜孰甚寒熱孰多喜惡何物

六書引經旨以定病名某證為標某證為本某證為

急當先治先其急某證為緩タトハハコレノ

當後治其ユルキ證ハ後

某藏當補某藏當瀉

七書當用某方加減某藥某藥補某藏某藥瀉某藏  
君臣佐使之理吐下汗和之意一々詳盡未書某郡  
醫生某某撰某某八姓

書年之干支月之春秋者占運氣也占ハ考ヘ定ムルナリ

書某地者占方宜也方土ノ宜ナリ書年形聲色者用之

以合脈也書苦樂者占七情也書始於何日者占

久近也年月之遠近ナリ歷問其病證藥物而書其驗否

者驗否ハ藥ノシルシアルトナキトナリ以之斟酌已見也ワカ料簡ヲ

書晝夜寒熱者辨氣血也氣血ノ虛實ヲ辨スルナリ

書喜惡何物者察陰陽藏府也陰陽藏府ノ偏勝偏絶ヲ察スルナリ

以津脾胃氣乃絶ノ類ヲ云ナリ

合年形聲色病證也書經旨者如法家引律法家ハ刑

行ノ家ナリ科人ヲツカサトル奉ニ見タリ使確乎不可

逃也確乎ハカタクシテサシ又キノナラ又ナリ

立ノアルナリタトヘハハソコノ諸候ニカ

ヤウノノ惡事アルエニ天子ヨリ軍兵ヲ出

シテコレヲウツノ類ナリ左傳ナトニ多クア

ニコレノヤウナモノニテコレノ病ナルユヘ

方藥君臣之理者欲病人連而嘗也其藥性ノ道

論語ノ聖言ニ本ツケリ未書己之名者欲病家

書脈狀者以之

誌之以驗己之工拙也 工拙ハ上手下手ナリ

凡者王公大人貴官儒門必書此一案便無一毫

苟且鬼ノ毛ノサキホトモナグ庶得作医之体

矣 リタル粗末ハナキナリ

以上ヲ醫案ノ七法ト云モ之此法ニヨリテ書

ハ夕トハハ

享保丙午冬十月江洲彦根一士人 ナルヒハ姓名ヲモ書ス年

四十餘形瘦色黑聲音重濁平坐系多憂怒從秋初胸

腹奔悶食不快美或嘔吐苦汁有時怔忡驚悸不安

一鑿與香砂六君子湯不效又更一醫與歸脾湯加

青皮厚朴十數貼雖似少愈未幾全效荏苒到年余

晝輕夜重夜間發熱至暈了々喜食酸物不已六脈

俱弦而帶數經云善嘔々有苦長太息心中愴々恐

人將捕之邪在膽逆在胃膽液泄則口苦胃氣逆則

嘔苦故曰嘔膽又曰肝為將軍之官謀慮出焉膽為

中正之官決斷出焉肝之與膽相為表裏此人屢謀

慮不決鬱怒無置肝膽怒氣上逆不下乘胃土而所

致也經所謂嘔膽者是也脈弦而數者肝火熾盛也

喜酸者木之味也夜間發熱者肝火乘於陰分也木

邪為本胃逆為標宜抑木邪為急開胃逆為緩先瀉

肝木除怒氣之上逆後緩胃逆健運化之源當用柴  
胡清肝散加白朮陳皮蓋其爲方也柴胡山危爲君  
黃芩人參川芎爲臣連翹桔梗甘州爲佐使加陳朮  
者和中氣也病愈之後調理以補中益氣六君子之  
類可保終吉慎述管見之爾

浴下醫生

姓名謹撰

カヤウノ類ナルヘシ然レ氏此七法ニ深ク拘  
リテハ文章モ夕夕クシク手ツニ七レハ病  
論ニ入用ナル一ハ書ベシ無益ノ一ハ省テイ  
カヤウニモ書ベシサレ氏ニツ此七法ヲ根據

トシテ書カヨシ其中ニ脈狀ハ必ス書スヘシ  
經文ヲ引テ病名病證ヲ正ス一必スアルヘシ  
モ之内至難至十トニ相應ノコトハナキ寸ハ  
方書ノコトハ古人ノ語又ハ医書ニアラヌ又經  
史詩文ノコトハニテモ相合スル道理アラハ  
宜ニ從テ引用ヘシアルヒハ譬喩ナトヲモ書  
ヘシ人ハ經文甚長クシテ引用カタキトキハ  
イカヤウニモ文字ヲ切ツ、メテ引ヘシ文字  
ノ異同ハ少シモ苦シカラヌ又脈狀ヲコトハ  
リ病証ヲ解スル一イカヤウニモ宜ニ從テ書

へし長文ナラハ省略ノ書又モ可也

一 医案ハ倉卒ノ中或ハ坐上ニテ書テ衆議判ヲ  
マツノ為ナレハアツリ奇異ナル文字人ノ讀  
カタキヤウナル文ヲカクハアシ、人ノ讀ヤ  
スクサトシヤスキヤウニ平易ニカクカヨシ  
古へハ王公大人高位貴官ノ病ニ諸医ヲ集  
テ医按ヲトリテ衆議アリタルナリ  
近世高位御不例ノ寸ニモ諸医ノ医按アリタ  
ルナリ今ハサヤウノ沙汰モナシ醫學ニ熟ス  
ル人少ナケレハ不吟味ノ多シシカレ氏医

タルモノハ何時人ノ所望ニヨリテ医按ヲカ  
クニシキニアラス其時不堪ナルハ恥辱ト云  
へシアルヒハ国字ニテカクハ見苦シ又詩賦  
文章ノ如クムツカシキトモアラス平生ニ  
コ、ロカクヘキトナリ

一 王公大人高位貴官ノ醫按ハ少々カキヤウニ  
傳授アリマツ

天子ナラハ拜診 天脈或ハ奉拜 御脈或ハ  
尊体玉体或ハ尊證尊恙尊候ナト書ベシ御  
ト云字日本ニテハ同輩ニモ用ユレ氏漢ニテ



八天子ニ限ル十リ平人ニ八決メ用イ又十  
リ又官家諸侯十ラ八貴脈尊脈貴症貴候十ト  
、カクヘシ余元文丙辰ノ冬丹州太守某君ノ  
二子キタマフニ應シテ彼地ニ到ル医按ヲ所  
望アリマ、ニシルス

謹上醫按

丹州太守某君高齡近不惑久臥病牀數月不愈召  
予診之謹診  
貴恙面目手足浮腫唇無血色大便數日不通通則  
多澹泄或時兼下血或多或少小便水晝夜纒二合弱

尊脈浮軟而弱重取如無有時左脈沉微之甚謹按  
其爲

久也敦繁朴實沈黙清靜慈仁而愛人寬貸而惠下  
可謂言忠信行篤敬者也蓋其於撫民出令孜孜用  
力勉強不倦息慮大過勞傷心氣心脾俱傷之所致  
也舉痛論云百病生於氣本神篇云憂愁思慮則傷  
心陰陽應象論云息傷脾蓋勞傷心脾之氣則水爲  
之不行故作浮腫之症也今氣行則水亦隨行是乃  
氣水合一之理也陰陽應象論云九竅爲水注之氣  
不言水氣之注而言水注之氣者乃是之謂也方用

分心氣飲順行氣滯兼用異功散補健中氣上數貼  
之後雖諸症稍除浮腫未退改用實脾飲加以木通  
車前子兼用仍舊焉且進以抑怒煩氣減慮少息之  
術及上數貼小水漸多一日到四合餘水穀分利大  
便亦實每更衣之後兼用參苓白朮散如此數日則  
浮腫日消諸症日除  
貴體復舊可立而待矣病愈之後以六君子之類調  
理心脾之傷則庶幾可收全功云

元文 丙辰 臘月十日

洛下 卅醫堀 元厚 謹上

右ノ醫按倉卒ノ作ナレハ規格トスルニ足ラ  
ストイヘ凡暫ク一例ノタメニアクルナリ  
一藥方ヲ書スル家々ノ家傳秘傳ナトモアリテ  
アラハニ方名ヲ書シカタキトモアルヘシソ  
ノ時ハタ、主方或ハ一方ナト、書テツノ方  
意バカリヲ書ノ藥品ハ書ヌモヨシ或ハ一味  
配劑ナラハタ、一方ト書シテ其藥品ヲカク  
モヨシカヤウノ一ハ面々ノ機轉ニアルヘキ  
ナリコレラノ趣医道訓ニ委シケレハコ、  
ニ省略スタ、シ官家諸侯ナドノ諸医集リテ

書ク医按十トハ是非氏ニ方名藥品分明ニ書カ宜ナリ

一治驗ノ書ヤウハ医按ト同シタ、病ノ全ク愈ル後ニ書カ治驗ナリコレハ古人ノ書例多クレハコ、ニ略スルナリ

一醫者按ノ書習ヒヤウハ師範タル人ヨリ按題ト云モノヲウケテソレヲ字ニナシテソレニ面々ノ料簡ヲツケテ書習カヨシ又古人ノ医按ノ藥方病論ヲカクシテ病症ハカリヲ人ニカセテソレニ病論藥方ヲツケテ其當否ヲ

試ルモヨシニカレ氏至テ初心ノ輩ハ文章ノ句法字法ヲ知サレハ顛倒多クシテハシメヨリ医按ヲカキテハ文ニナラスマツ古人ノ医按病論十トヲカクニテ人ニカ、セソレニ文字ヲ入レテ見テ其當否ヲヨク合点シテ書習カヨシコ、ヲ譯文ト云譯文ヲ二三トモカケハヲハツカラ文章ノ合点ユクナリ其後自身ノ文字ニテカリカヨキナリ初心ノタメニ案題ヲ少クコ、ニシルス

一老人ツ子ニ碁ヲスキテウツ毎日く友達ト往

来ニテウツアル時フトマケテヨリ弱キ人ト  
ウテ此トカクニケテカタズコレニヨリ心氣  
ヲモヤシテ食モス、マスブラノト病テ數日  
ニイタル

一婦人冬月産シテ後一七夜ノ中ニフト外へ小  
便ニ出テニハカニタラレテ氣ヲトリ失ヒ中  
風ナトノ如シ脈モ虚微ナリ

一男子年四十ハカリナニノ一モナキニ家ノ内  
ヲクルトトマハリテヤマスナニユヘトトヘ  
ハタマハハラ子ハヲラレヌト答フツノ外ニ

別ノ病ナシ

一 小兒五歳タ、目ヲフサク父母コレヲトヘハ  
タ、目カアイテイラレヌトイフ食事モツ子  
ノ如シ脈モツ子ノ如シ

一 僧ツ子ニ立花ヲコノムアル寸立花ヲ立スニ  
シテフトアヤマリテ花瓶ヲウチコカシテ心  
ヲウチヲル補ヒツキテモトノ如クストイヘ  
凡心安カラスソノ夜寒熱ヲ發シヨリニムナ  
ハキナトモアリ

カヤウノ類ナリ又古人ノ医按ヲ按題ニス

ルトイフハ

一男子年三十餘患淋數年每飲酒或勞役即發小便澀紅日夜數十行點滴頻數且痛紫嗜酸久藥不效脈浮數而瀉將何以治之

一男子仲夏患腹痛吐瀉兩手足捫之則熱按之則冷其脈輕診則大重診則微細將何以治之

一老人下血服犀角地黄湯其血愈多發熱食少裏急後重脈浮而滑將何以治之

一婦人因怒仆地語言蹇澁口眼喎斜四肢拘急汗出遺尿六脈洪大將何以治之

一士人暑月遠行渴飲泉水以單席陰地上睡頃間寒熱吐瀉不輟身如刀刮痛脈沈數將何以治之

コレヲノ類ナリカヤウノ類イカホトモアルヘニ推シ廣メテ修行スヘシ

稱呼總類

稱呼ハヨヒ名ナリ姓名ニハ非ス又父母伯父伯

姑姪從兄ノ類ナリ 医按テ書ニ此稱呼ノ人用

ナルト多シアルヒハ誰某ノ父誰某ノ母アル

ヒハムスコムヌメナト、書タキ時ノコトナ

リ不吟味ナレハ稱呼ヲアヤマレト多シタト

へハ大夫夫人ト云ハ母ノ一ナルニ内室ノ一ト  
 意得伯母ト云ハヨクヨメノ一ナルヲバノ  
 コト、ナシ娘子ト云ハ妻ノコトナルヲムス  
 メク一トトスノ類ナリコノ称呼ニ自他ノワ  
 カチアリ自トハ我父我母ナリ他トハ人ノ父  
 人ノ母ナリヨクク擇ムヘシコ、ニアラニシ  
 ヲシルス

大父 ダイイ  
 椿府 チンブ  
 大母 ダイモ  
 尊公 ソンコ  
 祖父 ソフイ  
 祖母 ソモ  
 祖翁 ソウ

尊翁 ソン  
 乃翁 ノウ  
 家嚴 カエン  
 以上ハ我ノヲ称ス  
 家翁 カウ  
 萱堂 ケンタウ  
 壽母 ジュモ  
 家母 カモ  
 伯父 ハクフ  
 弟ナシハ季父ト云○人ノヲ  
 称セハ令ノ字ヲバツクヘシ  
 ハナリ父ヨリ姉  
 ヲ云又姉ヲ云  
 姉云又姉ヲ云  
 ヲツクヘシ令姉トハカリ云テモヨシ  
 令尊 メイソン  
 家父 カフ  
 家尊 カソン  
 尊萱 ソンケン  
 聖善 セイゼン  
 家慈 カジ  
 叔父 シュフ  
 叔姑 シュコ  
 伯姑 ハクコ  
 伯母 ハクモ  
 家大人 カダイ  
 家府 カフ  
 大夫夫人 ダイフフじん  
 萱堂 ケンタウ  
 嚴君 エンキン  
 家大人 カダイ  
 家府 カフ  
 大夫夫人 ダイフフじん  
 萱堂 ケンタウ  
 以上ハ我ノヲ称ス  
 家大人 カダイ  
 家府 カフ  
 大夫夫人 ダイフフじん  
 萱堂 ケンタウ  
 以上ハ我ノヲ称ス

娘云又姆 叔母ノ父ノ弟ヨメヲ云又孀娘氏云人

大舅 兄ヲ云 小舅 弟ヲ云

令ノ字ヲツクヘシ令舅 母舅 母ノ兄弟ニ通シテ

從母 或ハ姨 姨 或ハ姨 姨 或ハ姨

稱セハ令ノ字 姑丈 同シニ 姨丈 或ハ舍弟氏云コ

兄弟ノヨメニ通メ云〇人ノ 家弟 或ハ舍弟氏云コ

令ノ字ヲ 姑丈 同シニ 姨丈 或ハ舍弟氏云コ

姊妹ノムコニ通メ云〇人ノ 家弟 或ハ舍弟氏云コ

令弟 人ノ 家弟 或ハ舍弟氏云コ

令姊 人ノ 家姊 我ノ云

從兄 イトコ テ、カタノヲ年上ヲ云 堂兄 上ニ同シ〇人

字ヲツクヘシ 堂弟 上ニ同シ〇人ノヲ稱セ

年下 堂弟 上ニ同シ〇人ノヲ稱セ

外兄 イトコ テ、カタノヲハカタノ我 表兄 上ニ同シ〇人

ノヲ稱セハ令ノ 外弟 上ニ同シ〇人ノヲ稱セ

イトコ 表弟 上ニ同シ〇人ノヲ稱セ

從姉 イトコ テ、カタノ我ヨリ年上 堂姊 上ニ同シ〇人

ノヲ稱セハ令ノ 從妹 上ニ同シ〇人ノヲ稱セ

トコ 堂妹 上ニ同シ〇人ノヲ稱セ

ナリ 堂妹 上ニ同シ〇人ノヲ稱セ

子云ヲ 豚犬セガレ 令愛ムスメコ 愛玉ムスメコ  
尊闈ヲガム 芳閨オナキ 拙荊ツツ 山妻ツツ

同シニ 同シニ

賤息セガレ 小頑セガレ 乃愛ムスメコ 夫人ヲカク  
側室オメカケ 房下ツツ 荊婦ツツ 室氏オナキ

乃妻オナキ 内助オナキ 荊妻ツツ 娘子オナキ  
傍妻オナキ

春蟲頑セガレ 豚兒セガレ 閨愛ムスメコ 弱息ムスメコ

乃妻オナキ 内相オナキ 孺人ヲカク 小女ムスメコ  
盛寵キニイリメカケ 渾家ツツ 荊房ツツ

劣息セガレ 令愛ムスメコ 孺人ヲカク 小女ムスメコ  
同シニ 同シニ

ハコレラ ム

賢郎ヘシク 賢胤コシク 賢胤コシク

賢胤コシク 賢胤コシク

賢胤コシク 賢胤コシク

賢胤コシク 賢胤コシク

賢胤コシク 賢胤コシク

賢胤コシク 賢胤コシク

賢胤コシク 賢胤コシク

賢胤コシク 賢胤コシク



令倩	賢垣	婦翁	嶽母	丈母	外姑	姑	小婦	壁妾
人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	云ナリ自他	云ナリ自他	云ナリ自他	云ナリ自他	云ナリ自他	云ナリ自他	云ナリ自他
英垣	乃岳	嶽翁	泰山	嶽文	泰山	嶽文	小妾	小妻
玉潤	尚賓	嶽翁	泰山	嶽文	泰山	嶽文	小妾	小妻
半子	乃岳	嶽翁	泰山	嶽文	泰山	嶽文	小妾	小妻
子婿	令婿	東牀	嶽父	丈人	丈人	丈人	外舅	舅

女婿	婿	猶子	甥	甥	甥	甥	甥	甥
人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ
女婿	婿	猶子	甥	甥	甥	甥	甥	甥
人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ
女婿	婿	猶子	甥	甥	甥	甥	甥	甥
人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ
女婿	婿	猶子	甥	甥	甥	甥	甥	甥
人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ
女婿	婿	猶子	甥	甥	甥	甥	甥	甥
人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ	人ノヲ云ハ

親考ニ索メテ見ルヘシ  
鑿案題式鶴臯山人雖有詳述世豈得而講焉初  
學之徒蒙々昧々每有人請按者摸稜報顏不知  
所爲徒爲人所軒渠真可嘆之甚也講授之暇表  
出鶴臯所述繼以一二案例附以稱呼總類國字  
譯解以授我徒使習究之是便若夫高醫明師不  
俟予之言也彰々明矣此我徒之外所以不肯披  
閱也

對井居 識

寶曆一曆壬午歲

冬臘月得之寫之

佐藤騰雲意

7  
12

天保十三壬寅年八月廿三日寫之

元本佐藤玄意所藏

宮崎氏

天保十三年八月廿三日寫之

元本佐藤玄意所藏

宮崎氏



Kitasato Memorial Medical Library